



意味の学校 footsteps project the class of 2015 (2期生)

～国連ハビタットの賢者、ラリスから志を受け継ぐ。「君なら、どうする？」～

2013年1月より、福岡県福津市津屋崎において、11人の有志（旦那衆）により、意味の学校を開校しています。

その一環として2015年8～9月に「footsteps project,the class of 2015」を開講します。

このfootstepsproject（通称：ラリススクール）を通して、日本の未来を共に変えていく仲間になって欲しい方々にこの資料を送っています。ぜひ一読していただき、参加をご検討下さい。

（責任者：旦那衆代表 山口覚、旦那衆 星野幸代（国連ハビタット））

＜この企画に至った経緯と意義＞

国連ハビタットという組織があります。この組織は開発途上国の戦後復興や災害復興において、公共施設や住宅の整備を行う機関です。国連ハビタットでは、復興が必要となった場所でインフラ整備の肩代わりをするのではなく、「ピープルズ・プロセス」（住民を復興の中心に据え、住民組織をつくり、組織に資金を預け、組織内で金の使い方や、まちの再建の計画策定や役割分担を決めていく）という手法を用いた復興の手法を長年に渡り取り入れています。

とはいえ、国毎に住民の性格や価値観、施工方法などが全く異なるので、マニュアル通りに事が運ぶことはありません。現場での実践の中からノウハウを蓄積してきたわけですが、中でも様々な国で実績を上げてきた3人の賢者と呼ばれる方がいました。しかし、彼らの知見を継承するプログラムは存在していません。

これからの時代、日本において行政と住民との間に立つ新しい役割として、「地域支援コーディネーター（のような存在）」が必要だと感じています。東北大震災後に、各地で行政と住民とをつなぐ役割の必要性が明確になった今、その考えは確信に変わりました。

そこで、東北復興支援も含めて、今後、日本全国で重要な役割を持つであろう、地域支援コーディネーター（のような存在）を育成するにあたり、国際的に経験のあるハビタットの賢者の経験を受け継ぐ事は大きな財産だと思い、このプロジェクトを企画するに至りました。

師匠は3人の賢者の一人でスリランカ人のラリス・ランカティレケさん。災害復興やまちづくりにおける国連ハビタットの手法としてピープルズ・プロセスを確立した方です。アフリカやアフガニスタンの戦災復興支援をはじめ、数々の災害現場を渡り歩き、何度も「死」に直面したそうです。定年後の今も、ハビタットのコンサルタントとして活動し、アジアのみならずアフリカでの「ピープルズ・プロセスをやって欲しい」という要望にも応えて各国に出張しています。

彼は一時、職員数千人を越えるハビタットの最大事業、アフガニスタン事業の総責任者でもありました。にも関わらず「司令塔」ほどの戦略家でもなく「大番頭」というほど計算する人でもありません。コミュニティを愛し、誰よりも被災住民を敬い信頼していました。「いちばん優れた経験も知見も技術も、地元の中に元々ある」といつも言っています。

ラリスは人の上に立つ立場にありつつ、謙虚さと思慮深さを同時に持ち合わせる、国連でも稀な存在でした。

シリアスな現場で、3年、5年、10年経つごとにどんな事が待ち受けているのでしょうか。ラリスは何を見て何を感じ、住民とどう再建を果たしていったのでしょうか。私達が同じ現場に立ったとき、まずはどんな行動を起こすのでしょうか。復興現場を想定したロールプレイングや

ラリスの経験談を織り交ぜながら、できるだけリアルな体験を再現できるプログラムを準備しています。そして今回、参加者の中に現場を持って活動している人がいますので、お互いの知見も共有し、より高みに登れればと考えています。数年の間に footstepsproject の終了生が 30 人生まれれば、想定外の出来事も乗り越えていける想像力と実行力のある、本物の地域支援のリーダーズユニットが構成されると考えています。ぜひ、一員になってください。

<国連ハビタット>

国際連合人間居住計画（英語： United Nations Human Settlements Programme）は、1978 年に設立された、国際連合の基金。本部はケニアのナイロビに置かれている。日本語の略称は国連ハビタット、英語の略称は UN-HABITAT、UNHSP。 <http://www.fukuoka.unhabitat.org/>

<ラリス・ランカティレケ>



スリランカ人。1950 年生まれの 64 歳。母国スリランカにて大学・大学院で建築および都市計画を学んだのち、スリランカ政府住宅局に勤務。その後、国連に転じ、ボツワナ、セイシェル諸島、南スーダン、スリランカ、タイ、ナミビア、南アフリカ、バングラデシュ、アフガニスタン等に駐在し、住宅を中心にインフラ整備事業に従事。特にスリランカでは、1980 年代当時としては画期的であった‘住民に意思決定を委ねる’「住宅 100 万軒建設プロジェクト」の責任者として事業の策定から実施までを手がけ、これが「ピープルズ・プロセス」の原型となる。また、この時ラリスが共同設立した、貧困女性のための小額融資スキームである「ウイメンズ・バンク」は、現在では 12 万人近い会員・準会員からなる同国最大級のコミュニティ銀行に成長している。

その後、アフリカ諸国においても「ピープルズ・プロセス」を軸にした住宅政策や都市政策を策定、ナミビアでは現在もラリスの策定した住宅政策が実施されている。2000 年以降はアジア太平洋地域に拠点を移し、バングラデシュにおけるスラム改善や貧困削減事業、また国連ハビタットの最大事業であるアフガニスタンにおける紛争後の復興事業の責任者として約 1000 人のアフガニスタン人職員を統括。戦後アフガニスタン政府の旗艦政策である「国家連帯プログラム」は政府とラリスの共同によって策定された。

2012 年に国連ハビタットを定年退職したのち、現在シニア・アドバイザーとして引き続き国連ハビタットの自然災害や戦争災害、またスラムなど貧困コミュニティにおける「ピープルズ・プロセス」によるまちづくりや復興事業を多数手がけている。

<意味の学校旦那衆、星野幸代（国連ハビタット）からのメッセージ>

このプログラムは、開発途上国のフィールドで実際にコミュニティ開発を担当することになる実務者向けの実務トレーニングとして、ラリスがMITで教えたときに考えたものをベースに検討を重ね構成しています。スケジュールを一見すると研修のように見えますが、実際はinternalize learning 学びを自分のものにするプロセスが重要で、ラリスが「僕はこういう風にやったけど、君ならどうする？」と、参加者がそれぞれに持つコンテキストに合わせて講座を進めていきます。ボールの投げあいも大切なプロセスの一部です。1回目をやってみて、2回目の内容や手法をがらりと変えることもあります。ご了承下さい。ラリスによると「Participatory Learning for Community Developmentであり、Participatory Learning of community Developmentではない」が重要なポイントだそうです。

■星野幸代（国連ハビタット福岡本部・本部長補佐官）（企画・通訳・話題提供）



（インタビュー記事：<http://www.unforum.org/unstaff/137.html>）

東京都出身。小・中学校時代を米国ニューヨークで過ごす。日本郵船株式会社定航部、モルガン・スタンレー証券会社投資銀行部および人事部勤務の後、国連地域開発センター兵庫事務所における契約業務やホームレス自立支援事業を経て、2004年より国連ハビタット福岡本部に勤務。イラク担当専門官としてイラク復興事業に従事したのち、現在本部長補佐官。

*通訳は他、数名を予定しています。

<講座概要> 受講をスタートに、日本にピープルズ・プロセスを広めていく footsteps project のメンバーとなり活動を広めていきます。

開催日時

8月1日(土) 9:00~2日(日) 17:00：福岡県福津市津屋崎にて(津屋崎ランチ集合 津屋崎4-15-17)

8月28日(金) 13:00~30日(日) 12:00：宮城県南三陸町にて

- ・定員は最大10名とし、3, 4名でも開催します。
- ・セミクローズドのプロジェクトです。プロジェクトの関係者や卒業生の知人・友人の参加が基本となります。(それ以外の方はご相談下さい)
- ・同時通訳で行いますので、英会話ができなくても大丈夫です。
- ・全2回の参加を前提としますが、やむを得ない場合は片方だけの出席もありとします。ただし、参加費は変わりません。
- ・欠席の場合はスカイプを使って山口が3時間程度のフォローをします。
- ・参加費は6万円です。交通費、及び宿泊代、食費は別途となります。(後払いOKです。学生は社会人になってからの支払いも認めます)
- ・参加費の内訳は、講師交通費、通訳代、本の作成費に充当します。7名を超えると余裕がでますが、その場合は事務局経費として頂きます。
- ・プログラム案は参加者の属性により、構成していきます。参加者にとって得るものが大きいものにします。
- ・講師(ラリス)は大変多忙であり、日程が急きょ変更になる場合があることをあらかじめご了承下さい。その場合は、参加者全員の日程調整を行い、数か月遅れでスライド開催します。

ラリスさんと少人数で長い時間を過ごすのは、公的な場では極めて難しい貴重なチャンスです。今回、ラリスさんにはこのプロジェクトの志しに賛同して頂き、星野さんと共にプライベートな立場で師匠を引き受けて下さいます。参加意思があれば、山口まで一報下さい。詳細の連絡をします。

ご自分の参加が難しい場合でも、「この人は！」という人がいれば、この資料をお渡しして、参加を検討するようにお誘い下さい。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

2015年 吉日

山口 覚 /意味の学校旦那衆代表 /津屋崎ランチLLP代表

星野幸代 /意味の学校旦那衆 /国連ハビタット

*本プログラムは「意味の学校」のプログラムとして開催します。(<http://1000gen.com/imi>)

*参加申し込みはこちら：yamaguchi@1000gen.com

< 1期生 (50音順) >



阿部裕志 (島根県)
巡の環



石橋裕子 (佐賀県)
学童保育支援センター・さが



遠藤ちえ (宮城県)
地域社会デザイン・ラボ



厨 勝義 (宮城県)
南三陸石鮎工房



斎藤昌平 (福岡県)
斎藤政雄建築設計事務所



下枝浩徳 (福島県)
かつらおむら創造協議会



田中ゆか (福岡県)
国際医療福祉大学



成田健二 (福岡県)
福岡県庁



松島宏右 (宮城県・当時)
BOLBOP
ふらっとーほく



山口 覚 (福岡県)
津屋崎ブランチLLP
LOCAL&DESIGN

NPO法人地域交流センター

<主なプログラム・あくまでも予定です>

*ラリスの話題提供と共に参加者相互のワークショップ形式で行います。

8月1日

9:00～ ガイダンス
9:30～ 参加者の自己紹介
10:00～ ピープルズプロセスとは何か？仕組みを学ぶ。
<昼休み>
13:30～ ラリスの経験と事例から学ぶ
文化・価値観が違う中でどう「よそ者」が住民と
共にまちを構築していくのか？
どんなハプニングが起きて、どう乗り越えて来た
のか？
17:00 終了
19:00～ 懇親会

8月2日

9:00～ サポートプロフェSSIONALとは？
そのスキルとあり方を学ぶ①
<昼休み>
13:30～ サポートプロフェSSIONALとは？
そのスキルとあり方を学ぶ②
17:00 終了



8月28日

13:00～ ガイダンス
南三陸でいま起きている事に耳を澄ます。
17:00 終了

8月29日

9:00～ <公開講座>アフガニスタン・ラシカガールで起
きた事について深く学ぶ
<昼休み>
13:00～ <ケーススタディ>アフガニスタン・ラシカガ
ールで起きたことと東北でのこれから起きる事、必
要な事を重ね合わせて、日本型ピープルズプロセ
スを考える。
17:00 終了
19:00～ 地元の方々と交流会

8月30日

9:00～ <ケーススタディ>
参加者の事例を中心にピープルズプロセスを用
いた未来像を描く
<昼休み>
13:00～ 全日程を通した振り返り
卒業式
15:00 <終了>